

## ボローニャ・プロセス・ディスカッション・シート

(ウェブ公表用。詳細一部省略)

OFIAS リエゾン・オフィサー 新井早苗

最終更新:2007年8月10日

### ■リサーチして感じて印象、気になるコメント

- ・ 質の保証がますます前面に? 学習成果の評価
- ・ 日本は国立大学法人化や、大学認証評価制度が開始されたばかりで、対応に「手が回っていない」
- ・ 国立大学法人評価の際(後?)、高等教育政策にその時の国際状況が組み込まれて来る?
- ・ ボローニャに対応しないことによるリスク
  - 「認証のサイクルが6~7年であり、それまでに空白があり、この間に日本は国際的なスタンダードから遅れてしまうのではないか」(文部科学省「国際的な質保証に関する調査研究協力者会議」)
  - 「ついていけないという選択肢もないわけではありませんが、留学生は誰も来なくなるでしょうし、日本で取った単位・学位は外国で通用しなくなることを覚悟する必要があります」(大阪府立大学高等教育開発センターニュース「フォーラム」第4号)

### ■状況比較表

	日本(国立大学法人)	欧州	米国
高等教育機関財源	国	国 (一部では授業料徴収制度あり)	多種
高等教育支出対GDP比 (2003年)	1.3%	仏1.4%、独1.1%、伊0.9%、蘭1.3%、西1.2%、英1.1%	2.9%
政府の関わり方	強	強	弱
学生の経済的負担(授業料)	中	低	高
大学進学率			
対応課題	教育の大衆化 少子化		優秀な海外人材獲得
高等教育改革	認証評価制度導入 国立大学法人化	ボローニャ・プロセス	
質の保証	国立大学法人評価 評価対象時期:~2010年3月	ボローニャ・プロセス 目標:2010年	
私的部門	あり	小(例外的)	あり
大学拡大(1960~2000年)の手段	私立大学拡大	公的資金投入による公立大学増設	公立大学拡大
使用言語/英語の共通語化への対応	必要?	必要(英国除く)	—
3サイクル(学、修、博)	あり	対応中	あり
留学生受け入れ	ODA	独、仏:ODA	
留学生の主な出身地域	アジア		

### ■短期的検討課題

<省略>

以上